

# 至学館大学

一般入試（前期） 2日目

国 語 出題意図

第1問 \*論説文の読解能力を問う。(毛内拡著『心は存在しない 不合理な「脳」の正体を科学でひもとく』)

問1 語の意味を捉えて文意に応じた漢字を選択する問題。文の意味を捉えるとともに一語一語の意味に注する学習が求められる。

問2 文章の構成を捉えて、適当な接続語を選択する問題。段落の内容を読み取ることで容易に解答できる。

問3・7 傍線部分の説明として適当でないものを選択する問題。

傍線部分について筆者は、一つの見方・考え方(「この方法」で指示される「要素還元主義」、現象(「量が質を凌駕する」)に関する事例を挙げて説明を繰り返している。問3、問7ともに、事例と説明の関係を的確に捉えることで、適当でない選択肢を選ぶことができる。

問4・5 文脈に適する語を選択する問題。

問4では、「要素還元」、「最小単位」、「分解」と類した語が繰り返されており、問5では、「～成果を収めてきましたが、しかし、」と逆説的な文脈が明らかであり、論の筋道から適する語を選ぶことは容易である。

問6 日常的に使われる語句の意味を捉えて、言い換えた表現を選択する問題。

問8 文章の内容を的確に理解した上で、選択肢と示された文の表現を的確に読み解く問題。「創発現象」は「部分の性質の単純な総和にとどまらない性質が全体として現れる科学的な現象」についての呼び方であり、その科学的な現象の原因でないことを理解する必要がある。

第2問 \*随筆文の読解能力を問う。(島田修三『昭和遠近』)問1、問3～問5、及び問7～問9

傍線部分の説明として最も適切なものを選択する問題。問1の傍線部(1)は傍線部の11行後を読まなければ解答できない。一方、問4の傍線部(2)は、傍線を含む2行分の内容を厳密に読み取る必要がある。文章読解力の整備を図る際には、出題文全体の内容を考えながら読むべき箇所と、そうではない箇所との区別に留意したい。

問2・問3

語句及び漢字の意味を問う。特に問3では「一」という小学校1年生で習う漢字の意味を問っている。漢字には原則的に訓があり、その訓がその漢字の意味を支えているが、訓以外にも複数の意味が漢字にはある。この観点に基づいた漢字学習の重要性を再確認したい。

問6 漢字力を試す問題。傍線(エ)は、「受賞」と「授賞」の区別が求められており、日々の学習において「熟語を訓読み」することが習慣化されているかどうかを試した。

第3問 \*故事成語の知識を問う。

日本社会のコミュニケーションにおいて使用される故事成語の意味を選択する問題。概ね理解していたが、「朝三暮四」では5割を下回っており、日常会話において言葉の意味を確かめることを大事にしてほしい。